

第50回「ハートミーティング」意見交換の内容について 採用1～2年目の民間企業等職務経験者採用職員

★参加メンバーからの主な声

- 民間企業経験者が積極的に職場をどんどん変えていくことを期待されているという市長の想いが伝わり、公務員という立場に甘えず、自己研さんが大切であると思った。今後も民間企業での経験を活かし、常に民間の視点を意識しながら職務に励みたい。
- できるだけ役所の仕事のやり方を覚え、それに倣おうとしていたが、時には敢えて摩擦を起こすことも重要であると感じた。経験者採用職員に対する市長からの期待に応えていけるよう、今後も仕事に励んでいきたい。
- 市長の気さくな人柄と和やかな雰囲気の中で、初めは緊張していたが、落ち着いて話すことができた。トップを身近に感じることができ、仕事のモチベーションアップにつながった。
- 職員力を発揮し、市民力、地域力をうまく組み合わせてケミストリー（化学変化）を起こすために、自分自身も火（情熱）をもって、それを市民の皆さんに伝播できるよう努めるとともに、周囲の職員にも良い影響を与え続けていきたい。
- 民間での感覚を忘れ、役所に馴染んでしまわないように、公務員としてのルールは遵守しつつ、おかしい習慣にや考え方にはおかしいと、声を出して自分の意見を言っていきたい。
- 民間企業経験者が直面している民間企業と役所のギャップについて、市長の意見を交えながら有意義な意見交換をする事ができ、今後の業務への取組や姿勢に対してよい刺激を受けた。
- 役所を風通しの良い、開かれた職場にしたいという市長の考えが分かった。市長がおっしゃっていた、人の心に火を点ける最高の職員になれるよう、頑張りたい。

- 市長と対談するという貴重な経験をすることができ、業務に対する士気を高めることができた。更に自己研さんにも励みながら、京都市職員として尽力していきたい。
- 市長が、一人ひとりの話に耳を傾けながら、ざくばらんに大変話しやすい空気を作っていたので、時間は短かったが良い時間を過ごすことができた。
- 市民の意見を酌んで仕事をしないといけない反面、我々がしている仕事についても、しっかりと市民に発信していかなければならないと改めて感じた。

★市長からのコメント

- 改めて経験者採用職員の皆さんには京都市の要となって働いていただいていることを実感した。“とがった”仕事をしていただき、率直に自分の意見を言いながら、更にその意見に磨きをかけることをお願いしたい。
- 組織を上から変えていくことも大切だが、第一線の職員が職場を変える原動力となっている組織は何より強い。そのような組織を作っていくことが必要であるし、皆さんには大いに期待している。
- 京都というまちにはあらゆる財産があるが、市民力、すなわち人が最大の財産である。その市民力を生かしきる職員力を個人としても、組織としても、高めていってほしい。
- これからの行政マンは、市民の心に火を点けていくことが一番重要ではないか。自分が燃え、職員同士で火を点け合い、そして市民に火を点ける。そういう仕事をしてほしい。
- 意思決定を早くし、スピード感を持ってすぐ実行する。そのためにも仕組みを変えていくことが大事。新鮮な感覚でどんどんと、それぞれの職場で建設的な議論をしてほしい。
- 「ヒト、モノ、カネ」に加えて広報が大切である。単に業務をこなすだけでなく、対外的にも積極的な広報に取り組んでほしい。